

# 解説

## 世界の中の日本の死刑

### 死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

世界では死刑廃止国が死刑存置国を大幅に上回っている。アムネスティ・インターナショナルの発表では2012年時点で、事実上の死刑廃止国を含む世界での死刑廃止国は141カ国、死刑存置国は57カ国となっている。事実上の死刑廃止国とは、刑罰としての死刑はあるが10年間以上にわたって死刑執行をしていない36カ国で、韓国やロシアなどがそうだ。2011年に死刑執行をした国は20カ国で、死刑執行された人は676人以上。死刑を執行している国は全世界198カ国の約1割、たったの20カ国にしか過ぎないのだ。

上記の死刑執行された人の数に、中国で死刑執行された人数は入っていない。中国政府は国家機密としてこれを発表せず、死刑に関する情報は決して表には出てこないからだ。少なく見積もっても、数千人が処刑されたであろうと言われている。

死刑執行した20カ国のうち多くはサウジアラビア、イラン、イラクなど、イスラム圏の国々だ。EU（ヨーロッパ連合）は死刑廃止を国是としなければ参加できないので、EU参加のヨーロッパ各国に死刑制度はない。

ひるがえって私たちの国日本では、いまだに死刑を存置し、死刑を執行している。いわゆる先進国といわれている国の中では、アメリカ合衆国と日本だけが死刑を存置しているのだ。そのアメリカ合衆国もここ数年で死刑廃止州が増えている。今は50州のうち17州が廃止している。

国連総会では過去4回、死刑存置国に対して死刑執行停止を要請する決議がなされている。昨年2012年12月にも国連総会で死刑執行停止要請の決議がなされた。111カ国が賛成という圧倒的な多数で採択されている。残念ながら日本は反対に回った。日本は死刑囚処遇の問題で、国連から幾度も勧告を受けている。処刑日を当日の朝に告げるのを止めて前もって知らせること、面会等の交通権を緩和すること、上訴はいかなる場合も行うこと、等の勧告だ。しかし日本はそれに応えようとはしていない。

下の表（略）は、日本でのここ10年余りの死刑執行数と、その年の年末における死刑確定者の数だ。

2007年鳩山邦夫法相時代に死刑執行ラッシュが始まり、死刑執行数は増えてきた。2010年に民主党政権になり死刑存廃に関する議論が活性化されると感じたが、結局死刑執行は行われ、実質的には何も変わっていない。今はまた自民政権に逆戻りとなり、死刑執行数は増えていくのではないかと不安だ。死刑確定者の数も2004年から増加し続けている。

犯罪白書を見れば明らかだが、凶悪犯罪の数は年々減少している。決して実際の治安が悪くなっているわけではない。にもかかわらず死刑判決の数は増えているのだ。死刑だけではない、無期懲役囚の数は10年前の倍近い1900人を超えている。日本の厳罰化は確実に進んでいく一方だ。

原因は何なのだろうか。メディアの過剰な事件報道のあり方。有罪率99%で「推定無罪」が原則となっていない今の裁判のあり方。格差社会が顕著になって人々の不満や閉塞感の充満した社会の抱える問題。こう

いった社会のあり方が根本的に解決されないまま、厳罰化することで多くの問題がなくなるような幻想を抱かされているのかもしれない。

世界は確実に死刑廃止へと向かっている。この流れは止まることはないだろう。人を殺してはいけないという当然のことを前提とした人間社会を、世界は作り始めているのだ。戦争と死刑をなくそうというのは、世界の流れだ。平和憲法を持つにもかかわらず、日本はその流れから後れをとりつつある。命を大切にしようという世界の流れ、その先頭を走らなければならないのが、日本の本当の姿ではないかと思うのだが。

(K)

「第2回死刑映画週間」で配られたパンフレットから、一部を抜粋させていただきました。